

令和8年3月4日

富士見市議会議長 勝 山 祥 様

建設環境常任委員会委員長 篠 原 通 裕

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、所管事務調査として下記の事項について調査を終了したので、富士見市議会会議規則第109条の規定により別添のとおり報告書を提出します。

記

- 1 調査事項 上下水道について
- 2 実施期間 令和7年6月12日から令和8年3月4日まで

所管事務調査報告書

令和8年3月4日

建設環境常任委員会

委員長
委員
委員
委員

篠原 通裕
堀 航大
木村 邦憲
篠田 剛

副委員長
委員
委員

熊谷 麗
根岸 操
佐野 正幸

1 調査事項

上下水道について

2 調査目的

上下水道は、市民の日常生活を支える基幹的なインフラとして重要な役割を担っており、富士見市ではこれまで、計画的な整備や維持管理により安定的な運営を図ってきた。一方で、昭和期に整備された管路の老朽化が進行していることや、将来的な更新需要の増大、人材確保や財政面を含めた事業の持続性など今後に向けた課題も顕在化しつつある。

また、令和7年1月に発生した八潮市の道路陥没事故を契機として、市民から不安の声が多く寄せられ、上下水道の安全性や維持管理に対する関心が高まっている状況にある。普段目に触れにくい施設であるからこそ、現状や将来の課題について正しく把握し、理解を深めておくことが重要であると考えた。

そのため、本委員会では、本市における上下水道の現状及び計画を把握するとともに、先進的な取組事例や現場の実態を調査することで、市民生活の安全・安心の確保及び市政運営に資することを目的として、本調査を行うこととした。

3 調査の実施状況

令和7年6月12日（木）	建設環境常任委員会 ・「上下水道」について調査することを決定 ・議員研修会の実施について決定
令和7年7月17日（木）	議員研修会の実施 テーマ：富士見市の上下水道について 講師：富士見市建設部水道課及び下水道課職員 【概要】 調査開始に先立ち、富士見市における上下水道の現状を把握するために事業概要、企業会計、老朽化対策について職員から説明を受けた。
令和7年8月20日（水）	建設環境常任委員会 ・行政視察の実施について決定
令和7年10月7日（火）から 令和7年10月8日（水）まで	行政視察 テーマ：上下水道について 視察先：愛知県豊田市 【概要】 豊田市では人工衛星やAIを活用した水道管の劣化予測や漏水エリア特定診断を導入し、広

	<p>範囲を調査することで、維持管理業務の効率化を図っている。また、過去の漏水データや職員の経験を活用した判断の平準化や、他インフラ事業者との連携による取組など、事業の持続性を確保するための工夫について理解を深めることができた。</p> <p>テーマ：上下水道について 視察先：愛知県豊橋市</p> <p>【概要】 豊橋市では、上下水道を一体的に管理・運営する体制のもと、AIによる解析を活用した漏水調査により、管路ごとのリスクを数値化し、調査や更新の優先順位を明確にしている。さらに、水道・電気・ガスの共同自動検針やスマートメーターの導入により、業務効率化と市民サービスの向上を図っている点が確認できた。</p>
令和7年12月4日（木）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政視察報告書の提出について決定
令和7年12月12日（金）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会の実施について決定 ・意見交換会実施要請書及び議員派遣決定要求書の提出について決定
<p>令和8年1月27日（火）</p> <p>午後 6時00分から 午後 7時30分まで</p>	<p>意見交換会</p> <p>テーマ：富士見市の下水道について 対象者：富士見市の下水道について施工実績のある市内下水道事業者</p> <p>【概要】 実際に下水道管の施工に携わっている方と、市内の下水道管の現状や課題について意見交換をした。</p>
令和8年3月4日（水）	<p>建設環境常任委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会実施報告書及び議員派遣報告書の提出について決定 ・所管事務調査報告書の提出について決定

4 調査結果

(1) 上下水道事業の現状に関する議員研修会

次の事項について把握することができた。

- ① 富士見市における水道・下水道事業の概要
- ② 公営企業としての運営及び企業会計の考え方
- ③ 管路の老朽化状況と更新・維持管理の取組
- ④ 将来を見据えた財政運営及び人材・技術継承の課題

これらから、上下水道事業は独立採算制のもと安定的に運営されている一方で、管路の老朽化対策や将来的な更新需要、料金改定の影響など、中長期的な視点で対応すべき課題があることが確認できた。

また、計画的な更新や工事調整を進めるとともに、限られた人員体制の中で効率的な維持管理を行っていく必要性について、委員会として認識を深めることができた。

(2) 愛知県豊田市における上下水道の取組事例の調査

次の事項が確認できた。

- ① AIや人工衛星を活用した水道管の劣化予測及び漏水対策
- ② データを活用した維持管理業務の効率化
- ③ 他インフラ事業者との連携によるコスト削減の取組

これらから、デジタル技術を活用することで、広範囲にわたる管路の状態を効率的に把握し、維持管理や更新の優先順位付けを行っていることが分かった。上下水道事業の持続性を確保するための一つの手法として、本市においても参考となる取組であると感じた。

(3) 愛知県豊橋市における上下水道の取組事例の調査

次の事項が確認できた。

- ① 上下水道を一体的に運営する組織体制
- ② AI解析を活用した漏水リスクの把握
- ③ スマートメーターを活用した業務効率化と市民サービスの向上

これらから、上下水道事業を一体的に運営することで、情報共有や業務の効率化が図られていることが確認できた。また、デジタル技術の活用により、維持管理の高度化と利用者サービスの向上を両立させている点は、本市が今後の上下水道運営を検討する上で示唆に富むものであった。

(4) 関係者との意見交換会を通じて把握した課題

意見交換会を通じて、上下水道事業の現場における実情や課題について意見を伺うことができた。

特に、老朽化対策においては、診断基準等に基づく報告にとどまらず、現場での経験を踏まえた安全対策の必要性が十分に共有されることの重要性が確認された。また、下水道管工事の実施に当たっては、住民の理解と協力が不可欠であることなど、現場に即した視

点からの意見が示された。

これらの意見から、計画的な更新を進めるとともに、現場の実態を踏まえた柔軟な対応が求められていることが明らかとなった。

(5) まとめ

本調査を通じて、上下水道事業は市民生活の安全・安心を支える基幹インフラであり、その適切な維持管理が極めて重要であることを改めて確認した。

老朽化の進行や人材不足など、全国共通の課題を抱える中で、先進自治体ではデジタル技術の活用や組織体制の工夫により、持続可能な事業運営に向けた取組が進められている。

議会としても、本市における上下水道事業の将来像について、地域特性や事業規模を踏まえながら見識や議論を深めていく必要があると考える。